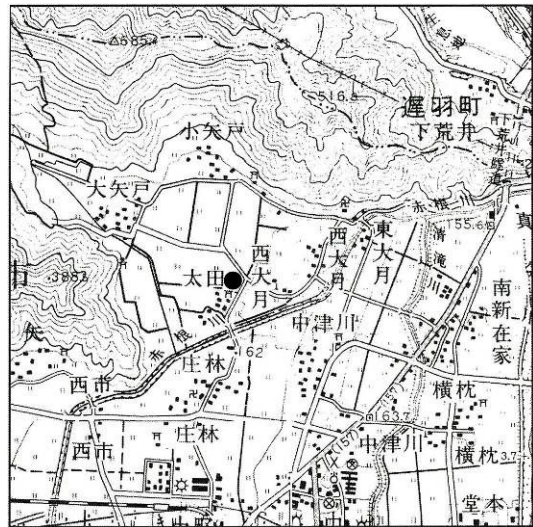


こやとはたほこいせき
18. 小矢戸旗鉾遺跡

所在地：大野市小矢戸・太田
調査原因：中部縦貫自動車道建設事業
調査期間：平成 21 年 4 月 1 日～9 月 30 日
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積：3,500 m²
時代：弥生時代後期、古代、中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要

遺跡は、赤根川左岸の微高地上に立地します。調査区の旧地形は微高地と旧河道群からなり、緩やかに南東へ傾斜します。土層堆積は、微高地では水田土直下に遺構面があり、旧河道群では水田土下位に埋土が厚く堆積していました。遺構は北西部（1群）と南部（2群）にまとめ、遺物は天箱 50 箱分出土しました。

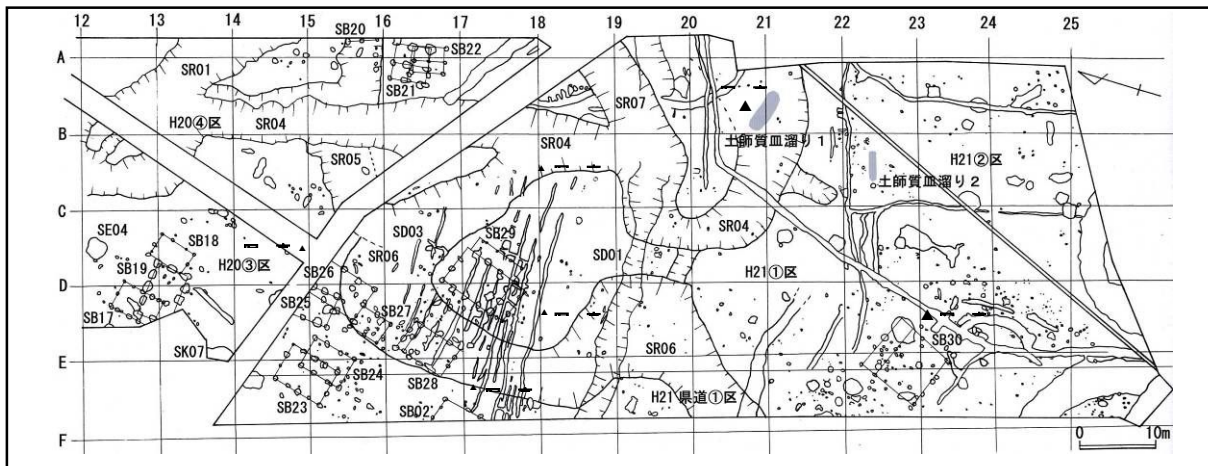
1群 掘立柱建物 (SB) 8 棟、溝 (SD) 14 条、土坑 (SK) 1 基、ピット約 200 基からなります。掘立柱建物は、4×3 間が 3 棟、3×2 間が 3 棟、2×2 間が 1 棟、不明 2 棟で、いずれも南北方向に棟をもつ側柱建物です。SB28 は建替えて北側へ拡張され、SB29 は東と南の 2 面に廂が付きます。遺物は、須恵器や土師器が多く出土し、SD03 から墨書土器「□女」が出土しました。時期は、古代で 8 世紀後半～9 世紀前半です。

2群 掘立柱建物 1 棟、溝 14 条、井戸 (SE) 8 基、土坑 18 基、ピット約 300 基、土師質皿溜り 2 箇所があります。SB30 は、3×2 間で東西方向に棟をもち、北側に廂が付きます。SD01 は、調査区中央を東西にのび、集落境と考えられます。東西や南北に細長くのびる溝群は、屋敷地の区画と推察されます。井戸は、いずれも素掘りで平面が円形を呈し、深さ 2.5 m 以上です。断面が掘り方上部でハの字状に開く一群と筒状の一群があります。土師質皿溜りは、2 箇所とも列状にまとめ、拳大の礫と共に廃棄されていました。遺物は、弥生時代後期の土器が主に溝や土坑、中世の土師質皿や越前焼等が掘立柱建物や溝、井戸等から出土しました。時期は、弥生時代後期と中世（13 世紀後半、15 世紀後半～16 世紀前半）です。

旧河道群 旧河道 (SR) が 4 条あります。いずれも大きく蛇行しながら南方へのび、埋没後に北西部は古代、南部では中世の遺構が構築されています。SR04・06 は、共に南半で肩から底面にかけて、埋土下層から弥生時代後期の土器が特に多く出土しました。

まとめ 1 群では昨年度までに発見していた古代の集落の続きを検出し、集落範囲の南限を把握できました。また、昨年度までは古代中心でしたが、2 群と旧河道群で弥生時代後期と中世の遺構と遺物を多く検出しました。継続的だが 3 時期にわたり営まれた集落であり、多様な様相が窺えます。

(田中勝之)



筐1図 調査区平面略図



写真1 平成21年度調査区全景 (北上見)



写真2 溝跡検出状況 (北上見)



写真3 SR26~28検出状況 (南下見)



写真4 SR29検出状況 (南下見)



写真5 SF05検出状況 (南下見)



写真6 土師貫血溜り1 (北上見)



写真7 黒土+嬰「門女」